

いっしープロジェクトとは

被災地ママ就労支援「いっしープロジェクト」は誕生から8年、宮城の被災者ママさんに復興のお馬「いっしー」の制作を依頼することで生活再建の一助となることを目的に活動してきました。



プロジェクトを始めた思い

8年前作り手さん探しの為初めて石巻・仙台をまわったあの日「**作り手さんの最後の一人がもう辞めるというまで続ける**」と心に誓って出向きました。就労支援は5年ぐらいでカタチになることではないと覚悟をもってスタートしています。いっしープロジェクト発足から8年が経ちました。内職プロジェクトなしでは生活が成り立たない方もまだまだいらっしゃいます。PTSDが改善せず働きに出辛い方もおられます。その様な方々は今も支援を求めたくても「10年経ったから大丈夫よね」というやんわりとした心で否定されてしまいます。住居、家財道具一切を失ったあと、仕事と心の健康があれば再建は早いかもしれませんが、しかしその二つが戻ってこない状態では、10年は意外と短いかもしれません。



ゴロンと転がったビル、打ち上げられた船はすっかり片付き新しい風景に整備されましたが、被災者の生活は整備されていないと感じます。それには一にも二にも仕事だと思っています。収入はもちろんのこと自分が制作した物がどなたかに愛されることは自尊心に繋がります。仕事のある喜びは勇気です。すっかり片付いたことのように思われる被災地にもう少し思いを寄せていたいのです。



なぜバッグ制作を始めるのか・・・

8年間で2万5,000個のいっしーを販売して来れましたのは、東北に思いを寄せてくださるお客様のお陰です。感謝申し上げます。コロナ禍の1年半、ほぼ全てのワークショップやイベントが中止となりました。いっしーの注文は激減。

そんな折り7年前に出会った畳バッグ作家 KUNIYA 様とのご縁が花咲くときが参りました。お届けまで3~6か月待ちと言われる大人気作家様が「いっしょと KUNIYA で一緒に何かできたらいいのにね」とおっしゃってくださいました。



(画像右：畳バッグ作家 KUNIYA オーナーデザイナー國谷博子氏)

コロナ禍だからこそその実現です。國谷氏も展示会が次々と中止になり、いつもより少しお時間がとれるようになったことで本企画がぐぐぐっと進みました。



昨年兵庫県立美術館ギャラリー棟3階でのイベントに展示された作品と写る國谷博子先生。

畳、畳ヘリとはとても思えない、畳をキャンバスにしたアートです。真ん中は人間が6人は入れるバッグです。圧巻の作品をご覧ください。

私自身が KUNIYABAG を心底リスペクトしています。國谷先生はふんわりした装いとは裏腹に、独学で学んでこられたお人だからこそその、もの作りへの情

熱、知識、こだわりが溢れており圧倒されます。KUNIYABAG は既に海外でも販売機会を得ていますが今後ますます飛躍されることと思います。

だからこそ！今東北のママ達に KUNIYABAG の縫製技術を身につけ継承して欲しいのです。いっしーの作り方を覚える何十倍、何百倍の技術とコツと経験と知識を要します。だからこそその挑戦です。「被災地ママ職人化計画」です。真の就労支援が実現します。

動き始めました

2年半前から KUNIYA×いっしープロジェクトのコラボレーションがスタートしました。いっしー制作で身につけた縫製技術と素材の丁寧な扱い方などが存分に活かされました。ですがコロナ禍。お会いして技術指導することはかなわず、1年半の間、定期的にリモートでの指導が続きました。



布とは違い畳と畳へりを組み合わせ何重にも重なるパーツをきれいに縫い合わせるのは至難の業。悪戦苦闘の時間が続きます。

一番苦戦したのは手縫いです。いっしー作りでも一部手縫いがございますが、素材が畳とあっては涙が出るような痛みや怪我との戦いです。



昨年緊急事態が明け、やっと御殿場での技術習得合宿が開催することができました。

頭から火が出るような熱量で連日夜遅くまでの猛特訓。

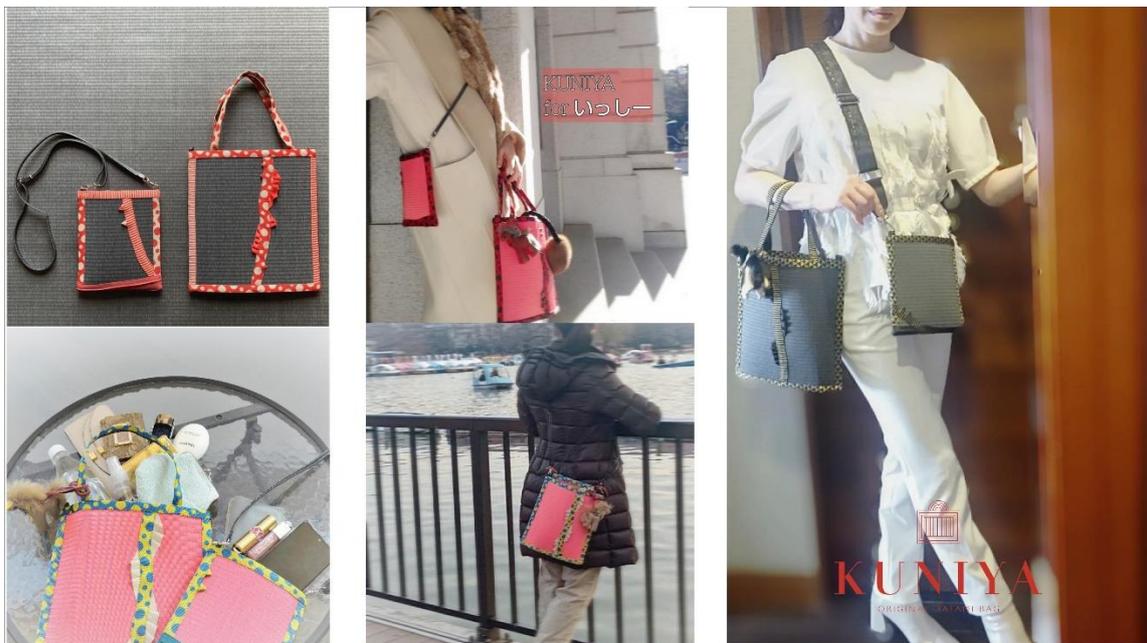


國谷先生の技術を習得すべく、食い入るようなまなざしで学ぶ作り手さん。食事の時間も惜しんで学びの時間でした。



満を持して KUNIYA といっしープロジェクトのコラボ企画 「Anqoo」 が誕

生しました。第一弾は大小コンビのサコッシュ、Happy Hand♡ コロナ禍で遠くへの外出は少なくなりましたが、ちょっとのお出かけにお使いいただきたい商品です。



ちょっとそこまで！

ワンマイルバッグとして大活躍。畳とは思えないファッション性の高さ、シンプルながらも機能性を最大限に表現しています。

- 軽い . . . 畳と畳ヘリの組み合わせ
- 丈夫 . . . 踏まれても傷みにく畳と畳ヘリの特徴
- 収納力大 . . . 畳には高い伸縮性があります。見た目はコンパクトで収納力

ぎゅっと押し込めばすっきり閉じられ満員電車も安心です。

親バッグにも両サイドにフックが付いていますのでショルダーとしてもお使いいただけます。

いっしー

バッグと同じヘリを使ったお馬のいっしーはオプションです。



ちょっとそこまでのワンマイルバッグを「Happy Hand」と名付けました。
なぜ？

1. ♡このバッグを持った時軽くてウキウキした心であなたの手がHappyでありますように。
2. ♡丹精込めてお作りするいっしープロジェクトの作り手のママさんのその手が幸せであるように・・・
3. ♡手から手へ・・・やさしさの 愛送り。

3つのHAPPYが叶います♡



畳文化の継承・存続の一役を担う

衰退産業の代表格とも言える畳産業。実は世界に誇る **SDGs** だったのです。畳には「表替え」「裏返し」という言葉があるのをご存じでしょうか？ 傷んだ面だけを変えて使う **リユース** を根底に考えたお作りが畳です。

先人の知恵で大昔から **SDGs** なのです。今日では畳は世界でも人気になりつつあります。私たち日本人の文化を私たちの手で存続できるよう守っていきたいと考えます。

また畳への文様は古くから日本に伝わる物が多くそれぞれ意味がございます。『再生』『蘇り』『命』『宇宙とつながる』など。少しずつでもその意味や深い歴史についてお伝えしたいと思えます。

今回のプロジェクトの意味



9年目のいっしープロジェクトから、2022年3月に **Anqoo** が始動いたしました。スタートアップのタイミングにファンの皆様に漕ぎ出しをお見守りいただき、背中を押していただきたいと考えています。



私たちはこの **Anqoo** という畳バッグブランドが日本のデパートのあちこちで販売され、被災地東北のママの仕事が世界へ羽ばたくことを目指しています。皆さんの応援でいっしープロジェクトのいっしーの背中に翼をください！！

いっしープロジェクト